

「光の子として歩みなさい」

校長 上戸 基夫

聖ステパノ学園中学校では、平和学習の一環として毎年広島平和記念資料館を訪れています。今年は終戦から八十年という大きな節目の年でもあり、例年以上に多くの人々がこの地を訪れていました。観光や見学という軽い言葉では言い尽くせないほど、そこには「平和を祈り、平和を学ぶ」人々の思いが集まっていたように感じます。

終戦のわずか十日前、一九四五年八月六日。広島の上空に投下された一発の原子爆弾は、一瞬の閃光と共に街を焼き尽くし、人々の日常を跡形もなく奪いました。わずかな想像を巡らせるだけでも、そこに広がった光景は「想像を絶する」という言葉しか出てきません。食べ物も住まいも失い、明日への希望を見失うほどの暗闇。その状況で「学校で学ぶ」ということは到底考えられなかったでしょう。展示を一步進むごとに、目を背けたくなるような遺品や写真の数々に心を揺さぶられます。その中で、私の目に特に深く残った二枚の写真がありました。

一枚は、焼け野原となった大地に子どもたちが集まり、その中心に大人が語りかける姿が写された写真でした。まさに「青空教室」と呼ぶにふさわしい場面です。曖昧な記憶ですが「学ぶ子どもたち」という題が添えられていたと思います。すべてを失った広島

で、なお子どもたちは集い、大人はそこに「学び」という小さな火をともしていました。一瞬の光で深い暗闇に落とされた人々が、その暗闇の中でなお小さな光を見つけ、それを次の世代に差し出していったのです。学ぶことは希望そのものであり、その希望は人と人をつなぎ、新しい歩みを始めさせる力になったのだと改めて思われます。

もう一枚は、クラウス・ルーメル神父の写真でした。ルーメル神父はドイツ出身のイエズス会司祭で、広島で被爆しながらも、すぐに救護活動に身を投じた方です。当時、どのような爆弾でありどれほどの影響があるのか分からない状況の中で、自らの命を顧みず、目の前に苦しむ人々へと手を差し伸べました。その姿は、人間的な勇気を越えた「神に突き動かされるような行動」だったのだろうと思います。そして彼の行動は、暗闇の中にいた広島の人々に小さな希望の光を与えました。彼は日記に当時の惨状と救護活動の様子を記録しました。そこには、人間の弱さと同時に、隣人のために生きる強さと確かな光が刻まれています。

二学期最初の週に与えられた聖句は「光の子として歩みなさい」(エフェソの信徒への手紙五章八節)です。本校の「海の見えるホール」の壁面にも、この言葉が大きく刻まれています。創立者・澤田美喜は、演劇を通して人に語りかけることを好んだ人であったと伝えられています。ホールという舞台は、子ども

もたち一人ひとりが自らの力を発揮し、輝きを放つ場です。その思いと重なるように、この聖句は私たちに「どのような時代にあっても光を放ちなさい」と呼びかけているのではないのでしょうか。

敗戦という暗闇の中から立ち上がった人々は、希望の光を見出し、互いに照らし合いながら新しい時代を築いていきました。光は一人で輝くものではありません。誰かの光は隣人を照らし、隣人の光と響き合って、さらに大きな輝きとなっていきます。私たちもまた、その連なりの中に生かされている存在です。

二学期を迎える今、聖ステパノ学園は、この「光の子として歩む」という言葉を心に留めて歩みを進めていきたいと思えます。生活の場、学びの場、学校生活の様々な場で生じる友人との関わりの中で、自らの光を小さくても灯すことで、その光は、周りの人に勇気や希望を与えるでしょう。そしてその一歩一歩の積み重ねこそが、戦後の人々が歩んだように、未来を形づくる力となります。

私たちキリスト教学校に与えられた使命は、まさに「光をともし、光を育むこと」です。暗闇に屈するのではなく、互いの光を大切にし、照らし合いながら歩んでいくこと。その営みの中に神さまの導きがあり、希望の未来が拓かれていきます。二学期の始まりにあたり、改めて私たちは「光の子として歩む」ことを心に留めて歩みを始めたいと思えます。

大きなランドセルに思いをいっぱい

小学校一年生担任 近藤 穂佳

小さな背中に大きなランドセルを背負いながら、緊張した面持ちで少し恥ずかしそうに「おはようございます。」と挨拶する声から始まる学校生活。今年度は二名の小学校一年生を迎えました。授業では、二年生と共に音楽、生 활科、図画工作や体育の授業を行っています。また、掃除の時間では六年生がお手伝いに来てくれ、掃除の仕方を教えて貰いながら、掃除に励んでいます。上級生と一緒に休み時間を過ごしたり、色々なことを教えて貰いながら、日々成長しています。

「わたしは、がっこうへいくことが好きです。なぜかというと、べんきょうややすみじかんのせんぶがすきだからです。」

これは、国語の授業の『すきなことをしらせよう』という活動で、ある一年生が書いた文章です。一生懸命にノートに書いた文を見て、心が震えたのと同じように、安堵の気持ちでいっぱいになりました。なぜならば、入学礼拝式の日には、私は一年生と保護者の方に「ステパノをみんなにも好きになってもらえたらうれしいです。」とお伝えしたからです。やはり、担任として、子どもたちが元気に学校に行き、楽しく過ごすことが一番であると思っています。そんな

うれしい気持ちのまま、一学期最終日、少し大きくなった背中を送り出しました。ランドセルにはきつと大きな思いと夢が詰まっているのだなと感じました。これからも子どもたちが持つ思いと夢を支えながら、共に歩んで参ります。

新たな出会い

中学校一年生担任 松澤 玲奈

今年度は十四名の中学一年生が入学をし、新たな中学校の仲間となりました。入学して三か月、日々共に生活をしていると、子どもたちの成長や変化が当たり前となり、なかなか気づけないなど、教員になってから感じていました。ですが、入学式の写真を見返すと、その変化は一目瞭然で、三か月での子どもたちの成長・表情の変化に驚かされます。

さて、今年度の中学一年生は、授業への参加がとにかく積極的です。授業のはじめから意見を求められるとすぐに手を挙げる子、授業中盤からだんだんと自分の考えがまとまりスツと手を挙げる子、静かに授業に参加し自分の考えが存分に詰まった課題を提出する子。参加方法は様々ですが、どの生徒も学びに興味を持ち、疑問を抱き、自分の考えを一生懸命に表現します。おそらく学びの中で、小学校の時には考えもし



なかった視点に立ったり、出会いもしなかった考え方に会ったりしていることと思います。今はまだ、自分の言いたいことが一番な子どもたちですが、三年間共に過ごす仲間がいることで、だんだんと他者の考えにも耳を傾け、自分の考えを膨らませる材料にしていく姿を考えると楽しみです。

担任としても、子どもたちの考えに耳を傾け、寄り添うことができるよう、努めて参ります。中学一年生とのまずは一年間、どうぞよろしくお願いたします。

## 先生たちにインタビュー

### はじめに

今年度から新たな体制でスタートした本校。七名の先生方へのアンケートから見えてきた「目指す学校像」と「教育への想い」を一ページにまとめました。

## ステパノ学園の魅力

- 少人数の中で多様な個性を自然に受け入れ、互いに学び合える環境
- 教員と生徒の距離が近く、全教職員が一人ひとりを見守る体制
- キリスト教教育を偽りなく実践できる雰囲気
- 利便性と自然環境を兼ね備えている。

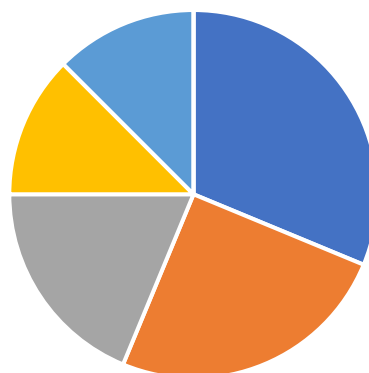
### 先生たちの声

「それぞれの特性を一つの個性として自然と受け入れられる土台があります。」

「共に生活する意識のもとで授業や行事が行われています。」「様々な環境や背景を持つ子どもたちを受け入れ、同じクラスで共に学び合える。」

## 今後の重点方針

### 重点方針



- 主体的な学びの育成
- 生徒指導・生活習慣の確立
- 地域関係者との連携
- 学力向上
- 部活動行事の充実
- ICTの活用

### ▶ポイント

六項目でアンケートをとった結果、最も多く挙げたのは「主体的に学ぶ力の育成」。時代の変化に合わせて、子どもたちが自ら考え行動する力を伸ばしたいと考えている方が多いことがわかりました。

### 子どもたちにつけてほしい力

- 考える力：自分の意見を言葉にし、他者に伝える力

## 目指す学校像

- 主体性・判断力：迷いや葛藤を経て決断し、行動する力
- 他者への思いやり：感謝の心と寄り添う勇氣
- 生活力：社会に出て生き抜く力、困難を解決する力
- 温かく安心できる学校
- 共に学び合い、互いを尊重できる学校
- 小さくても整然とした環境を保ち、子どもと教員が共に育つ学校
- 生徒一人ひとりが学校生活を「自分たちのもの」として創り出せる学校

## まとめ

今回を通して浮かび上がったのは、「子どもを中心とした教育」の大切さでした。その積み重ねが、これからの学園の未来を形づくりります。今後も、「子ども一人ひとりが輝ける学校づくり」を合言葉に、教育活動に取り組んでまいります。皆様の温かいご理解とご協力をいただきながら、ステパノ学園のさらなる成長を目指してまいります。

## 小学校

小学校では、

5月に、春の遠足・キャンプ（低学年）

6月に、音楽会

7月に、キャンプ（高学年）

が行われました。

### 春の遠足

○低学年

小田原わんぱくランドに行きました。1年生にとっては初めての遠足。入学して1ヶ月が経ったとはいえ、ようやく学校生活に慣れてきたところ。とても緊張した面持ちで当日を迎えました。しかしながら、そんな1年生を2・3年生が優しく手を取りながら一緒に行動してくれ、1年生もホッとした様子でとても充実した1日を送ることができました。

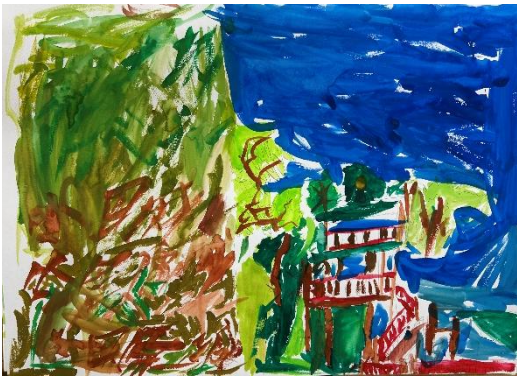
【丘の上でお弁当を食べている様子】



【コスモワールドの大きな滑り台】



【小田原城アドベンチャー】



○高学年

午前中は、ステパノ学園と同じ聖公会の教会である横浜山手聖公会を訪問しました。昨年度

まで本校の担当をしてくださっていた島田司祭が今年度より横浜山手聖公会に着任し、ご挨拶も兼ねてみんなで訪問させていただきました。普段は入れない鐘楼にも上らせていただき、狭い階段を上り下りする怖さと貴重な場所に行ける楽しみでみんな大興奮でした。

港の見える丘公園でみんなで昼食をとり、午後は班ごとにみなとみらい地区を見学しました。氷川丸の中に入った班もあれば、横浜開港資料館で開港の歴史を学んだ班、ニュースパークで自分たちの新聞を作った班もありました。遠足後の総合の時間には、遠足での学習を踏まえて今と昔の教会の違いや大磯と横浜の港の違いをまとめ、3年生の前で発表しました。

### キャンプ

今年度のキャンプは、低学年は学校に、そして高学年は足柄ふれあいの村に宿泊しました。このページでは、今年度行ったキャンプをいろいろな形（俳句や日記）で表現してみました。

○低学年

1〜3年のキャンプでは、こまたんの方にお越しいただき、アオバトについてお話しいただきました。今まで知らなかったアオバトの特徴や食事の様子などに、興味津々の様子でした。1年生は一足先に下校をし、2・3年生は夕食作りをしました。自分たちで野菜を切ったり、皮をむいたりして、協力してカレーを作りました。自分たちで作ったカレーは格別においしかったですですね。また、みかんシャーベットもみんな

などで手作りし、カレーと一緒に食べました。キンキンに凍ったシャーベットのデザートにちよように良かったようです。

1日目の最後はナイトハイクをしました。普段明るい時間にしか行かない学校の中や海に見えるホールは、いつもと同じ場所のはずなのに、怖がっている様子も見られました。

雨のため、照ヶ崎海岸での磯観察は叶いませんでしたが、充実した2日間を過ごせました。

○高学年

【日記】(5年生の日記より)

7月2日から7月4日まで、足柄ふれあいの村へキャンプに行きました。バスに乗ってキャンプ場まで行きました。そして入村式をやってプレイルームでキャンプソングをみんなで歌いました。曲は、「キャンプだほい」です。林先生がギターをひいてくださいました。それからお弁当を食べてからコテージに行きました。その後、みんなでキャンプ場を散策しました。道がでこぼこ歩いて歩くのが大変でした。夕食は、カレーを作りました。ランチョンマットにシールをはりました。一班のみんなの分も用意しました。外で食べるカレーはとってもおいしかったです。そして、お風呂に入りました。きんちようしたけど、上手に洗えました。みんなでお風呂も悪くないかと思いました。そしてねました。1日目は、すごくすごく楽しかったです。

2日目は、6時に起きました。朝ご飯を食べた後、生き物ハンターゲームをしました。動物

カードを探すゲームです。ぼくの班は十枚以上見つけました。景品もお菓子をもらいました。お昼は、ホットドックを作って食べました。すごくすごくおいしかったです。その後、コテージで休んでから飛行機で遊びました。お風呂に入った後、ご飯を食べました。塩焼そばもカレーもおいしかったです。暗くなってからキャンプファイヤーをしました。みんなで「燃えろよ燃えろ」を歌いました。声当てゲームやジェスチャーゲーム、牛乳パック積みをやりました。初めて見るキャンプファイヤーはすごくきれいでした。

3日目はいよいよ帰る日です。楽しい時間はあつという間に過ぎてしまいました。学校に着いて、悲しくなりました。十泊ぐらいでした。たです。すごくすごく楽しかったです。来年はキャンプと修学旅行があるから楽しみです。

【俳句】

暑い日に バリンバンバン まくらなげ

風透 座布団投げた 思い出だ

作った俳句の中には、まくらなげをはじめコテージの中での出来事がたくさん書かれています。キャンプでは、コテージの中で過ごす時間も思い出に残るすてきな時間ですね。でも、座布団まで投げるとは…。

夜の森 こわいよこわい 夏のやみ  
暗い中 ねるのがいいな 森の中  
こわかった もえろよもえろ 夏の夜

普段、子ども達だけではなく、私達大人もあまり「やみ」というものを経験しません。夜でもあらゆるところで電気が付いていて本当の「やみ」を経験する機会は少なくなっていますね。

キャンプでね 火をおこしたよ お昼にね

夕食のために火をおこしましたが、火をおこすのが大変で、明るいうちから夕食のための準備を行いました。料理をするというのはどれだけ大変なことかを実感できたと思います。

そよ風が きもちよかった くらい夜

足柄ふれあいの村は山の中にあるので、普段生活している学校よりもいくぶんすずしい風が吹いていました。夜は、なおさらひんやりしていて、お風呂上りにとっても気持ちいい風を感じる事ができました。

木をもやし みんなの顔が 夏の月

キャンプファイヤーの火で照らされた子ども達の顔はとても幻想的で、その様子を「夏の月」にたとえたのです。キャンプファイヤーをしている時、夜空にはきれいな月が輝いていました。きつとその月の輝きと子ども達の笑顔の輝きが重なったのだと思います。

## 中学校

### 6月に音楽会が行われました。

今日は、音楽会でした。きんちようして声がいれんしゅうのときよりもちつちやくくなつちやいました。でも、前の音楽会のれんしゅうより声がでるようになってよかったです。来年はもつとよくなりたいです。

中1 I・M

今日は音楽会の当日でした。

なので、いつもの倍以上、練習をしました。練習では、とても美しい音色、ハーモニーが響き渡っていました。本番では声が少し小さくなってしまいました。そこが反省です。ですが、この経験を糧に、来年に繋げていきたいと思えます。

中1 S・R

音楽会本番をやりました。やる前は緊張しました。しっかり声を出せました。

来年はもつと顔を上げたり、歌声の音程を合わせられたらいいです。

中2 I・A

今日は、音楽会がありました。ざんねんなことにお父さんとお母さんが来れませんでした。いろいろな学年の音楽を聞きました。中3のサザン力がすごく胸にのこりました。あと1年半しかステパノにいられません。中3の卒業式まで楽しみたいです。

中2 K・R



今日は聖ステパノ学園の2025年度音楽会でした。音楽会のまえにあいた時間で練習をつみかさね、練習の時間がたくさんはなかつたけれど、こんなにうまくなったのは中3のみんなの心が1つになったからです。楽しい音楽会でした。

聖ステパノ学園中学校の音楽会は最後まで、泣いてわらった音楽会でした。

中3 K・T

今日、最後の音楽会でした。なんだか寂しいです。けど、練習してきた今までの成果を出し切れて良かったですし、今までで一番良かったです。

書写の時間に書いて貼った歌詞が途中で外れちゃったけど、でも、本当に最後なんて実感がわかないくらい大切な行事、そしてまだまだ行事があるので楽しみます。

中3 H・R



今日の音楽会で最後でした。みんな共に歌い、みんな一生けんめいやりました。自分はサザン力を兄、そしてクラスの仲間たちという思いで歌いました。保護者もありあがっていて、母は「すばらしかった」と言っていました。その気持ちでこれからの行事にもつなげて、いい思い出が作れるように、仲間と共に支え合いながら、すばらしいクラスにしたいです。

中3 M・M

## 夏休み入ります。サマーキャンプに行きます。

1日目の今日は、カレーがおいしくできてよかったです。明日はもつと時間によゆうをもつて行動していきたいと思えます。反省点は、5分前行動ができなかったもので、次から5分前行動を意識していきます。でも、予定よりも早く行動する事ができてよかったです。

来年は、中学2年生になるので、もつと努力して5分前行動などを意識していきたいと思えます。

中1 T・Y

- ・朝の集合時間に遅れずに来ることができた。
- ・時間を守ることができた。
- ・野外すい事で、声を出すことができてよかった。連けいすることができたので早く食べ始めることができた。
- ・2日目のそうじをていねいに行うことができた。

中1 T・T



2日間のサマーキャンプを通して、箱根の自然観察をまず行い、展示の鑑賞などを通して箱根の自然と触れ合い、到着後のクラフトでは諦めそうになるほど大変な作業でしたが、時間の終わりまで続けました。野外炊事に至っては単純作業が常に行われ、疲れましたが、速く出来ました。出来上がったカレーは非常に美味しかったです。その後、アブに刺されるなど、アクシデントもありましたが、なんとか平穩に進みました。風呂で汗を流し消灯をもって就寝しましたが、突発的に地震が起こったりしたものの、何とか2日目の朝を迎えられて良かったです。

中2 H・N

今日はサマーキャンプ1日目でした。朝はM君と会って「今日は楽しもうな」など話しました。今日と明日すぐメンバーが来る中、KとK、Rが休んでいて悲しく感じました。そしてバスに乗り、森のふれあい館でつくしさんにガイドツアーをして頂きました。すぐく面白かったです。その後、箱根の里に着きました。少し休けいした後、竹のはしを作りしました。難しかったです。そして、野外炊事で火起こしの係でした。咲間先生がフオローして下さい、ちゃんと火が付き、お米やカレーもしっかりできてよかったです。キャベツサラダやフルーツポンチもすぐおいしかったです。目標を達成することができたと思います。片付けまで頑張ってみるなで感想を言い合いながら帰り、お風呂がすぐくきもちよかったです。そして夜の礼拝もおわつて、いざ寝ようと思ったら地震が起こってすぐ怖かったです。あまりよく寝れませんでした。2日目は朝4時20分ごろに起きました。まだ時間があったので二度寝しました。すぐく気持ち良かったです。しっかりと時間通りに起きました。あまりみんなふとんがためていませんでした。朝の礼拝が終わって、朝ごはんを食べました。すぐくおいしかったです。そして掃除がありました。すぐく大変でしたが一発合格で良かったです。退所式が行われました。いざ帰るとなると寂しく感じます。来年は2泊3日がいな！と思います。そしてバスに乗り学校に向かっている間しりとりをしました。すぐく面白かったです。学校に着き、振り返りをしました。6班はしっかりできていましたが、少し時間に遅れるなどがあり、来年の改善点かなと思います。自分の目標に「班長に頼り過ぎず、自分が

班長だという気持ちを持って、良く声かけをして、班長よりも疲れるように頑張る。忘れ物や時間を守り、責任を持って行動する」としましたが、自分ではもう少し頑張れたかなと思います。すぐく楽しいサマーキャンプでした。

中2 F・K

今日はサマーキャンプ1日目でした。まずバスに乗り、森のふれあい館に行きました。ここでは自然とふれあうのに大切な五感の活用、人と自然とのこれからの関係についてなどを説明してもらいました。改めて自然の大きさや人と共存していく必要性などを学ぶことができました。次に行ったことはクラフトです。竹を小刀で削ってはしを作りました。最後は野外炊事でした。自分の班は前回の野外炊事より連携や協力をとることができました。そのため、他の班よりも早く終わらせ、早く食べて片付けることができました。カレーもキャベツもフルーツポンチもおいしかったです。お風呂もとてもよかったです。

昨日地震がありました。結構びっくりして部屋みんな起きました。でもそれ以降は何もなかったです。朝起きて礼拝をして朝食をいただきました。とてもおいしかったです。その後は掃除をしました。大変だろうなと思っていましたが、そこまで大変じゃなかったです。そして最後に体育館で各班の反省の発表がありました。2日間を振り返ると本当に充実した2日間だったなと思います。班長として3年生としてやらなきゃいけないこと、気配り、周りを見て次に何をするかを指示することなどやるのが沢山あって疲れたなとか大変だなと思う

ことはありました。しかし、班のメンバーもちゃんと指示を聞いてくれたし、集中して自分のやること、役割をこなしてくれて、一緒にいて心強いなと思うことができました。この2日間で学んだこと、反省を次の行事でも活かしていきたいです。

中3 Y・T

自然観察をする前に森のふれあい館の前でつくしさんの話でハチがもし近づいてきたらどうするかという話を聞いている時に顔の周りにブーンと蚊が飛んで来てすごいびっくりしました。自然観察をしている時に色々な植物もあったんだと思いました。

新しいことを知れて良かったです。クラフトで竹のはし作りをする時、1時間で完成するのがかと思っていたけど、時間を気にしないでけずっていたら完成しました。両方同じ太さにできなかったから家でけずろうと思います。野外炊事では、今日の朝、班の人数が少なくなって、自分の担当が変わってしまった子がいて、練習していないから不安だったと思うけど、みんなテキパキ動いてくれて、練習の時よりすぐ早く終われてよかったです。

この野外炊事を通して先生も言っていた通り、みんなやればできるんだ！と思いました。みんなでいい思い出が作れて良かったです。

中3 G・T





### 【一学期をふりかえって】

子ども達が新たな環境に一步ずつなじんでいく中、保護者としてもS.Aのさまざまな活動を通して、学園とのつながりを感じることができました。ここでは、一学期に行われた活動のうち、二つの取り組みを紹介いたします。

### 花そうかい

若葉が風にそよぐ五月。花そうかい委員会の企画により、総勢十四人で澤田美喜記念館にお邪魔しました。

ご案内くださったのは、大磯町の語り部としても活躍されている同館主任・武井久江さん。ときに笑いを交えながら、澤田美喜先生の生涯とその偉大な働き、また先生が収集された隠れキリシタンの遺物などを臨場感たつぷりに紹介していただきました。

戦後の混血孤児を救う乳児院の創設から、エリザベス・サンダース・ホーム、聖ステパノ学園の設立へ。約二十千人の子どもたちの「母」として、私財を投じ、命を懸けて歩まれた澤田美喜先生の面影と情熱に触れ、学園への理解がより深まったように思います。

貴重な映像資料を特別に公開していただく

など、充実したプログラムをご用意してくださった記念館の皆さまに感謝申し上げます。

午後はランチ会も催され、子育ての悩み、日々の気づき、趣味の話など、和やかに語り合うひとときとなりました。

### 絵本の会

六月末の放課後、絵本の会委員会による「絵本の会」が開催されました。

木のぬくもりが心地よい小学校の図書室に、小学一〜四年生の十三人が集まりました。大きな木製テーブルとベンチを隅に寄せ、床に広げた敷物の上に仲良く座って鑑賞します。

全部で四冊の絵本が読まれました。そのうちの一冊、世界中で愛されている名作『にじいろのさかな』は大型絵本。キラキラと輝くうろこをまとった魚たちが、大きなページいっぱい描かれ、子ども達はまるで青い海の世界に吸い寄せられるように、身を乗り出して見入っていました。

お母さんやお父さんがソファで読み聞かせてくれるような、あたたかな雰囲気なのか、特別な時間を楽しんでくれたことと思います。先生方も優しいまなざしで見守ってくださいました。

「絵本の会」は二学期も予定されています。対象学年のお子さんは、ぜひご参加ください。

### 編集後記

未曾有の暑い夏がまだまだ猛威をふるっていますが、暦の上ではもう秋です。まつりに運動会に遠足と、秋は行事が目白押しです。子ども達の作文を通して、ステパノの季節を感じていただけたら幸いです。(こ)

代表者 校長 上戸 基夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二五年九月二十四日(水) 発行第293号